

■「リバリバ大阪2010」の開催報告

昨年開催された「水都大阪2009」の理念を継承・継続し、市民活動の場としての川や水辺をいま一度見直し、「水都大阪」再生のまちづくりムーブメントをつくりだしていくことを目的として、平成22年10月1日から10月3日まで3日間、「水都にぎわい創出プロジェクト2010 ～River!リバー!りばー!～」(通称:リバリバ大阪2010)が開催されました。

(本プロジェクトは、水都大阪推進委員会が、市民・NPO、経済界、大阪府や大阪市など様々な主体が、水都のまちづくりを進める際の指針となる「水と光のまちづくり構想」を策定するための社会実験として実施されました。)

1. **開催日時** 平成22年10月1日(金)～3日(日) 3日間
※10月3日は雨のため、午後5時をもって中止

2. **開催場所** 中之島公園、八軒家浜、水の回廊の各船着場

3. 取組方針と効果

取組方針:大阪らしい水辺空間の創出
目指す効果:「大阪モデル」の創出

【主なプログラム等】A 水辺のプログラム

- 市民参加事業(共催事業)
ステージパフォーマンス、ブース展示、Eボート体験教室 ほか
- 低炭素社会をリードする水辺の賑わい創出事業
電気自動車・エコカーフェスタ ほか
- はちけんやリバーサイドカフェ ほか

B 船着場プログラム(地域協同企画)

- 新機能「水の輪」～大阪の水の魅力を世界に発信!
- e-よこ・船旅!船あそび!(本町橋暫定船着場)
- とんぼりライブ(太左衛門橋船着場) ほか

C ウォーター・ファンタジア

- 昼は音楽に合わせた噴水ショー、夜は幻想的な水と光のショーを展開。

【来場者数】延べ約42,000人(中之島公園、八軒家浜会場)



ステージパフォーマンス



船着場イベント



ウォーター・ファンタジア

■事務局からのお知らせ

ICAPの継続開催に向けた第6回ICAP開催都市の募集ならびに2010年上海万博への大阪出展、「リバリバ大阪2010」の開催報告を各都市のみなさまへお知らせするために、アクアポリスNo.13を発行することとなりました。今後ともICAPへのご支援、ご協力のほどよろしくお願いします

ICAP事務局長:大阪市建設局河川担当部長 寺尾 豊

■ICAP事務局への連絡先

住所: 〒559-0034 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎12階 大阪市建設局下水道河川部河川担当
TEL:06-6615-6835 FAX:06-6615-6583 E-mail:la0028@city.osaka.lg.jp

AQUAPOLIS

AQUAPOLIS

No. 13
International
Conference of
Aquapopolises
Publisher: Yutaka TERAO



第6回国際水都会議の開催都市を募集します。

■第6回国際水都会議開催都市の募集

国際水都会議(以下、ICAP(International Conference of Aquapoleses))というは、平成2年に、大阪市制100周年を記念して、大阪市が提唱し開催した会議で、「水・緑」に関して特長をもつ世界各国の水都と呼ばれる都市が一堂に会して、水を生かしたまちづくりのノウハウ等の情報交換を行い、21世紀の水都のあり方などを議論していく国際会議です。

ICAPはこれまで3～5年ごとに開催してきており、近年では第5回ICAPが平成20年5月に韓国の釜山広域市において開催されました。第5回ICAPでは、世界15ヶ国41都市の水都から市長や専門家などが釜山広域市に集まり、「持続可能な水都に向けて」をメインテーマとして、水と緑を活用したまちづくりのノウハウ等の情報交換を行い、21世紀の水都のあり方などを議論しました。

現在ICAP事務局ではICAPの継続開催に向けて第6回ICAPの開催都市を募集しており、貴市におかれましてもぜひとも第6回ICAP開催についてご検討いただきますようよろしくお願いいたします。つきましては、別紙の第6回ICAP開催都市返信フォームに必要事項をご記入の上、ICAP事務局までご返信の方よろしくお願いいたします。

<第5回ICAPの様子>



開催宣言



全体会議



専門家会議

■過去のICAP開催経過

	開催都市	開催時期	会議参加都市
第1回会議	大阪市(日本)	1990年7月	33都市(210名)
第2回会議	上海市(中国)	1993年11月	28都市(110名)
第3回会議	ピレウス市(ギリシャ)	1997年3月	22都市(80名)
第4回会議	大阪市(日本)	2003年3月	55都市(900名)
第5回会議	釜山市(韓国)	2008年5月	41都市(150名)

■2010年上海万博への大阪出展「環境先進都市・水都大阪の挑戦」(報告)

「環境先進都市・水都大阪の挑戦」を基本テーマに、大阪は日本の都市として唯一2010年上海万博のベストシティ実践区に出展し、大阪・関西の環境先進技術を体験型の展示物も交えてわかりやすく紹介するとともに、古くから水とともに栄えてきた水都大阪の魅力を中国・世界に向けてアピールしました。

■上海万博の概要

246の国・地域と国際機関、その他企業と都市が参加した2010年上海万博では、そのテーマ「より良い都市、より良い生活」が、「展示」、「イベント」、「フォーラム」を通じて様々な形で表現され、5月1日から10月31日までの184日間で7308.44万人の来場者を記録するなど、史上最大規模の万博となりました。

また、これまでにない新しい取組みとして、都市が参加することが出来る「ベストシティ実践区」やインターネット上で万博を疑似体験できる「オンライン万博」が設けられました。



上海万博会場の様子

■大阪館(展示)

大阪館は、当初の目標140万人を大きく上回る、171万人を超える来館者をお迎えすることができました。スタッフのホスピタリティあふれるおもてなしをはじめ、「水技術」、「エネルギー技術」を中心とした大阪・関西の環境技術展示が大きな関心を集め、好評を博しました。

大阪がこれまでに水都として発展してきた一方で、大気汚染等の様々な公害で苦しみ、これらを克服してきた経験と技術、まちづくりを紹介しました。特に、水技術に関する中国メディアからの取材が100回を超え、来館者からの質問も多く寄せられるなど、中国における水質汚濁、水資源問題に対する関心の深さが窺えると同時に、大阪・関西のこれまでの取組み、先進技術が高く評価されました。

また、関西の府県市と協力し、大阪・関西の観光魅力をアピールするなど、水都として再生する大阪のイメージを中国・上海で伝えました。

なお、環境技術の展示物の1つは、制作した大阪大学の承諾を得て、2012年春に開館予定の「世博記念館」に寄贈され、今後も大阪の環境技術を上海でアピールし続けます。



大阪館の外観



「桜の通り抜け」



特別展示と「水の回廊」



環境技術展示(エネルギー技術)



環境技術展示(水技術)



熱心に見学する来館者



関西の都市魅力展示

■イベント

万博では、その国独自の文化などを紹介するイベントが行われるナショナルデー(国家の日)が指定されます。上海万博では、初めて都市が参加することとなり、ナショナルデーに相当するスペシャルデーを指定することが出来ました。

大阪は、7月28日を「なにわの日」として大阪スペシャルデーに指定し、「大阪-上海友好盆踊り大会」、「浪花の華・大阪盆踊り大パレード」などを開催しました。日本からも、各界の代表者や市民など500名を超える人が上海へ渡り、盆踊りは飛び入り参加も含め約2,000名の盛会となり、大阪と上海の市民交流を大いに深めました。また、大阪の高校生が帆船「あこがれ」で上海までセイルトレーニング航海し、青少年交流を行いました。



「大阪-上海友好盆踊り大会」



「浪花の華・大阪盆踊り大パレード」

■フォーラム

上海万博の一環として、開催期間前から多くの万博パブリックフォーラムが行われ、開催期間中には、6つのテーマフォーラムとサミットフォーラムが開催されました。

大阪からは、南京で行われたテーマフォーラム4「低炭素都市の実現に向けて:環境変化と都市の責任」に北山大阪市副市長が参加し、大阪の過去の経験や、市民との協働による取組み、高い環境技術などを紹介しました。また、橋下大阪府知事がサミットフォーラムに参加し、「都市の『成長と定住』を支える『ソーシャル・キャピタル』」をテーマに講演しました。

■おわりに

万博出展の機会をとらえて、大阪館の環境技術展示協力企業とともに上海市内で「大阪環境・水技術セミナー in 上海」を開催し、平松大阪市長がトッププロモーションを行うなど、さまざまな取組みが行われました。閉幕後、具体的な技術導入の計画や、メディアからの照会を受けたとの参加企業からの報告もあり、ビジネス交流の促進につながりました。また、来館者へのアンケート調査で、約94%が「今後大阪に観光で行きたい」、約45%が大阪の印象を「環境技術が発達している」と回答するなど、水都大阪の魅力と大阪・関西の環境先進技術を伝えることが出来ました。

出展を契機として、今後さらに中国とのビジネス交流や友好交流が深まっていくことを願っています。



じゃ口から直接飲む水をアピール



ホスピタリティが高く評価された



万博パスポート(スタンプ帳)にメッセージをもらう子どもたち